

よろくぶ通信

群馬県立玉村高等学校

発行日 2024. 3. 22

第63号

発行人 校長 田島 正徳

第65回卒業証書授与式

早いもので令和3年に入学した生徒たちも卒業の季節を迎えました。3月1日（金）に来賓として同窓会長倉林教夫様、PTA会長木村美生様にご出席いただき、第65回卒業証書授与式が盛大に挙行されました。

今年度の卒業生は72名です。コロナウィルス感染拡大も沈静化したため、数年ぶりに国歌、校歌、仰げば尊し斉唱を行い、通常の形式で式を実施することができました。

保護者や在校生の見守るなか厳粛に式は進行了しました。入場から、式の進行中、最後の退場の場面では卒業生の心中では過ぎ去った3年間で走馬灯のように蘇り、新しい門出への希望を感じていたのではないのでしょうか。卒業生はもちろん保護者や在校生にとっても感慨深い卒業式でした。

卒業生代表の答辞は前生徒会長の清水愛理さんが行いました。その内容は、各学校行事の思い出、共に協力してくれた上級生、同級生、後輩への感謝等でした。終半では卒業後の希望と決意でこう締めくくられています。

「時には壁にぶつかることもありましたが、そんな日があったからこそ今の私たちがいます。これからの私たちはそれぞれの道を歩んでいきます。夢への道のりは決して平坦ではないと思いますが、この玉村高校で学んだことを自らの糧として、最後まで諦めず精一杯挑んでいきます。」



この答辞のように本校で学んだ3つの精神「奉仕、勇気、誠実」を胸に刻み、卒業後の夢や未来に向かって力強く歩んで行ってほしいと思います。

また、卒業式及び前日の2月29日（木）には、次の生徒が表彰されました。

＜学校表彰 学業成績優秀＞

植原綾斗 井上愛理

＜3カ年皆勤者＞

植原綾斗 藤井彩華 村田呈斗 飯塚達哉

＜3カ年精勤者＞

秋山桃美 小田カツミ 羽鳥太貴 八木悠宇
市原拓海

＜三学期の行事&次年度に向けて＞

本年度は前期・後期入試が一本化されたため登校日数も増え、若干余裕をもって3学期の学校行事に取り組みました。そのいくつかを紹介します。

○2月6日（火）課題研究発表会



高校生活の学習を基盤にして興味を持ったこと、疑問に思ったことなどテーマに代表者が発表しました。完成度が高いだけでなく、とてもユニークで興味深い発表もありました。

○2月9日（金）3年生を送る会



1・2年生の合唱、クイズ、スライド、ダンス、吹奏楽、バンドの演奏、思い出のスライド上映等盛りだくさんでした。全校の生徒が楽しみ、そして盛り上がりました。

○3月13日（水）玉村かるた大会



玉高チャレンジプランの中で地域の魅力発見も学習の大きな眼目の一つです。その一環として1年生が玉村かるたを楽しみ、地域学習をしました。

また、3月5日（木）令和6年度入学者の合格発表があり、来年度の入学予定者が決まりました3月18日（月）には合格者オリエンテーションが行われ、新年度に向けての準備が進んでいます。

校長室だより

「卒業式式辞より」

校長 田島 正徳

今年度も無事に卒業生を送り出すことができました。

毎朝、職員打ち合わせ終了後、玄関に立ち、生徒にあいさつや声かけをさせていただきました。赴任して2

年間、この時間は私にとって大切な時間です。毎日、生徒にあいさつすると、元気にあいさつを返してくれる日と、そうでない日があります。気になって、学年主任や担任の先生に尋ねると、友達との関係が微妙だとか、家庭や進路の悩みがあるようでとか、理由を聞かせてもらうことが多くありました。

保護者の皆さま方は、もっとお子さんのことが気になっていたはずですが、以下、卒業式でのPTA会長の「祝辞」から、一部を紹介させていただきます。

『…親の私たちも同じで、あなたたちの話をじっくり聞けなかったり、うるさく言い過ぎてしまったり、突き放してしまう事もありました。でも、今日は笑顔で過ごしていたか、スマホを見ている顔は曇っていないか、食欲はあるか、悩みはないかと私たち親は見守ってきました。自分の命より、はるかに失うことが怖い命があることを知ったあの日から18年間、毎日です。…』

そして、こちらは生徒代表答辞の一部を紹介させていただきます

『…そして、いつもいちばん身近で見守ってくれた、家族、普段は素直に伝えることができないけれど、言葉にできないほど、感謝しています。いつも支えてくれてありがとう。…』

生徒が子どもから大人になるにつれ、保護者や先生方が生徒の皆さんにしてやれることは、段々と減っていきます。いつまでもできるのは、見守ることと、幸せになってほしいと願うことだけ…。在校生も、目には見えないけれど、「思い」や「願い」を受け止められる人であってください。

今年の卒業式も、卒業生・保護者・在校生・教職員、それぞれの思いが詰まった、忘れられない一日となりました。

